



Press release

2018年5月25日

アクサダイレクト生命

2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）の業績を発表

アクサダイレクト生命保険株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：斎藤英明）は、2018年5月25日、日本会計基準に基づく2017年度（平成29年度）の業績を発表いたしました。

収入指標

保有契約件数は前年度末比16.9%増の105,672件、保険料等収入は前年度比17.1%増の4,278百万円となりました。

収益指標

経常収益が4,284百万円となる中、経常費用7,452百万円（うち、保険金等支払金1,318百万円、責任準備金等繰入額1,373百万円、事業費3,212百万円、その他経常費用1,547百万円）、法人税等合計△793百万円を控除した結果、当期純損失は2,374百万円となりました。

財務基盤

ソルベンシー・マージン比率は1,723.2%となっており、十分に高い健全性を確保しております。

アクサダイレクト生命について

アクサダイレクト生命は、2008年4月より営業を開始した日本初のインターネット専業生命保険会社で、アクサ生命保険株式会社の100%子会社です。アクサ生命、アクサダイレクト生命、アクサ損害保険の3社で形成されているアクサジャパンのダイレクトビジネスを担う生命保険会社として、手頃でわかりやすく、お客さまが自信を持って選択できる保険商品を、インターネットを通じて提供しています。チャンネルとデバイスを複合的に活用することでサービスの利便性向上をはかり、お客さまが納得してご契約いただけるよう独自のオムニチャネルを構築しています。

AXAグループについて

AXAは世界64ヶ国で16万5,000人の従業員を擁し、1億700万人のお客さまにサービスを提供する、保険および資産運用分野の世界的なリーディングカンパニーです。国際会計基準に基づく2016年度通期の売上は1,002億ユーロ、アンダーライニング・アーニングス（基本利益）は57億ユーロ、2016年12月31日時点における運用資産総額は1兆4,290億ユーロにのぼります。AXAはユーロネクスト・パリのコンパートメントAに上場しており、AXAの米国預託株式はOTC QXプラットフォームで取引され、ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（DJSI）やFTSE4GOODなどの国際的な主要SRIインデックスの構成銘柄として採用されています。また、国連環境計画・金融イニシアチブ（UNEP FI）による「持続可能な保険原則」および「責任投資原則」に署名しています。

本件に関するお問い合わせは下記までお願いいたします

アクサダイレクト生命保険株式会社

ダイレクトマーケティング部 広報

TEL：03-5210-1540 FAX：03-5210-1542

E-mail：communication@axa-direct-life.co.jp

<https://www.axa-direct-life.co.jp/>

2017年度決算(案)について

アクサダイレクト生命（代表取締役社長 齋藤 英明）の2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）の決算(案)をお知らせいたします。

<目次>

1. 主要業績	……	1 頁
2. 2017年度末保障機能別保有契約高	……	3 頁
3. 2017年度決算(案)に基づく契約者配当金例示	……	3 頁
4. 2017年度一般勘定資産の運用状況	……	4 頁
5. 貸借対照表	……	10 頁
6. 損益計算書	……	13 頁
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	……	15 頁
8. 株主資本等変動計算書	……	16 頁
9. 債務者区分による債権の状況	……	17 頁
10. リスク管理債権の状況	……	17 頁
11. ソルベンシー・マージン比率	……	18 頁
12. 2017年度特別勘定の状況	……	18 頁
13. 保険会社及びその子会社等の状況	……	18 頁

以上

お問い合わせは、次にお願いたします。

2017年度決算(案)のお知らせ

2018年5月25日

アクサダイレクト生命保険株式会社

2017年度の決算(案)の概要は以下のとおりです。

1. 主要業績

(1) 保有契約高及び新契約高

保有契約高

(単位：千件、億円、%)

区 分	2016年度末				2017年度末			
	件 数		金 額		件 数		金 額	
		前年度 末比		前年度 末比		前年度 末比		前年度 末比
個 人 保 険	90	124.4	5,303	112.1	105	116.9	5,778	109.0
個人年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-
団 体 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-
団体年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-

新契約高

(単位：千件、億円、%)

区 分	2016年度末						2017年度末					
	件 数		金 額				件 数		金 額			
		前年度比	前年度比	新契約	転換による 純増加	前年度比	前年度比	新契約	転換による 純増加			
個 人 保 険	24	132.6	976	112.5	976	-	22	91.7	909	93.2	909	-
個人年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団 体 保 険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団体年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(2) 年換算保険料

保有契約

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度末		2017年度末	
		前年度 末比		前年度 末比
個 人 保 険	3,624	123.0	4,237	116.9
個 人 年 金 保 険	-	-	-	-
合 計	3,624	123.0	4,237	116.9
うち医療保障・ 生前給付保障等	1,643	131.3	2,041	124.3

新契約

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度末		2017年度末	
		前年度比		前年度比
個 人 保 険	992	131.8	951	95.8
個 人 年 金 保 険	-	-	-	-
合 計	992	131.8	951	95.8
うち医療保障・ 生前給付保障等	543	142.9	568	104.5

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
2. 医療保障給付（入院給付、手術給付等）、生前給付保障給付（特定疾病給付、介護給付等）、保険料払込免除給付（障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む）等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

(3) 主要収支項目

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度		2017年度	
		前年度比		前年度比
保 険 料 等 収 入	3,652	126.8	4,278	117.1
資 産 運 用 収 益	0	10.6	0	51.4
保 険 金 等 支 払 金	1,569	179.3	1,318	84.0
資 産 運 用 費 用	0	133.3	0	87.9
経 常 損 失 (△)	△ 3,633	-	△ 3,167	-

(4) 総資産

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度		2017年度	
		前年度末比		前年度末比
総 資 産	9,324	85.2	8,465	90.8

2. 2017年度末保障機能別保有契約高

(単位：千件、億円)

項 目		個人保険		個人年金保険		団体保険		合計	
		件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
死亡保障	普通死亡	42	5,778	-	-	-	-	42	5,778
	災害死亡	11	1,138	-	-	-	-	11	1,138
	その他の条件付死亡	-	-	-	-	-	-	-	-
生存保障		11	100	-	-	-	-	11	100
入院保障	災害入院	34	2	-	-	-	-	34	2
	疾病入院	34	2	-	-	-	-	34	2
	その他の条件付入院	125	4	-	-	-	-	125	4
障害保障		-	-	-	-	-	-	-	-
手術保障		59	-	-	-	-	-	59	-

項 目	団体年金保険		財形保険・財形年金保険		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生存保障	-	-	-	-	-	-

項 目	医療保障保険		項 目	就業不能保障保険	
	件数	金額		件数	金額
入院保障	-	-	就業不能保障	-	-

- (注) 1. 個人年金保険、団体保険、団体年金保険、財形保険・財形年金保険、医療保障保険及び就業不能保障保険については、保有はありません。
2. 入院保障欄の金額は入院給付日額を表します。
3. 受再保険については、保有はありません。

3. 2017年度決算(案)に基づく契約者配当金例示

当社は無配当の個人保険のみの取扱いのため、該当する事項はありません。

4. 2017年度の一般勘定資産の運用状況

(1) 2017年度の資産の運用状況

①運用環境

2017年度の運用環境は、日銀のイールドカーブコントロールにより長期金利は低位での安定推移が継続、景気は緩やかな回復を続けました。

日経平均株価は、北朝鮮をめぐる地政学リスクが相場の重荷となり4月に今年度最安値となる18,335円となりましたが、フランス大統領選でのマクロン氏の勝利、ドイツの州議会選挙での与党勝利など欧州政治リスクや地政学リスクの後退により堅調さを取り戻しました。

米国の株式市場では、法人税減税を盛り込んだ税制改革の進展の期待などから1月にはNYダウなど主要指数が史上最高値を更新しましたが、良好な雇用統計を受けた利上げ観測の高まりから2月、3月とNYダウは大幅に調整しました。

日経平均株価も、米国株式市場をはじめ世界的な株高や企業業績の上振れ期待などから、1月23日には26年2ヶ月ぶりに24,000円台に回復、24,124円と今年度最高値となりました。しかし、米国株式市場での利上げ観測の高まりによる急落や円高・ドル安の進行から、2月、3月と大幅に下落し、3月末は21,454円で終値をつけています。

米連邦準備制度理事会（FRB）は6月、12月、3月と政策金利（FFレート）の引き上げを決定し、誘導レンジは1.50%～1.75%となりました。一方、日銀は金融政策の現状維持を続けており、10年国債の利回りは、日銀の政策を受け低位で推移し、3月末は0.049%となっております。

②当社の運用方針

当社では、引続き、資産の流動性を十分に確保したポートフォリオ運営を行います。具体的には預金と日本国債への投資を運用方針の基本とし、流動性に関しては適切なコントロールを行いつつ、信用リスクも適切な範囲内に抑え、中長期的にも安定した健全なポートフォリオの構築を目指しています。

③運用実績の概況

2018年3月末の総資産は84億円となりました。そのうち、現金及び預貯金が65億円、有価証券は保有しておりません。

資産運用損益につきましては、利息収入が0百万円、支払利息が0百万円となりました。

(2) 資産の構成

(単位：百万円、%)

区 分	2016年度末		2017年度末	
	金 額	占 率	金 額	占 率
現預金・コールローン	5,740	61.6	6,586	77.8
買 現 先 勘 定	-	-	-	-
債券貸借取引支払保証金	-	-	-	-
買 入 金 銭 債 権	-	-	-	-
商 品 有 価 証 券	-	-	-	-
金 銭 の 信 託	-	-	-	-
有 価 証 券	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-
株 式	-	-	-	-
外 国 証 券	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-
株 式 等	-	-	-	-
そ の 他 の 証 券	-	-	-	-
貸 付 金	-	-	-	-
不 動 産	45	0.5	39	0.5
繰 延 税 金 資 産	504	5.4	190	2.3
そ の 他	3,034	32.5	1,648	19.5
貸 倒 引 当 金	-	-	△0	△0.0
合 計	9,324	100.0	8,465	100.0
う ち 外 貨 建 資 産	-	-	-	-

(3) 資産の増減

(単位：百万円)

区 分	2016年度	2017年度
現 預 金 ・ コ ー ル ロ ー ン	71	845
買 現 先 勘 定	-	-
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	-	-
買 入 金 銭 債 権	-	-
商 品 有 価 証 券	-	-
金 銭 の 信 託	-	-
有 価 証 券	-	-
公 社 債	-	-
株 式	-	-
外 国 証 券	-	-
公 社 債	-	-
株 式 等	-	-
そ の 他 の 証 券	-	-
貸 付 金	-	-
不 動 産	10	△ 5
繰 延 税 金 資 産	△ 342	△ 313
そ の 他	△ 1,364	△ 1,385
貸 倒 引 当 金	-	△ 0
合 計	△ 1,625	△ 859
う ち 外 貨 建 資 産	-	-

(4) 資産運用関係収益

(単位：百万円)

区 分	2016年度	2017年度
利息及び配当金等収入	0	0
預貯金利息	0	0
有価証券利息・配当金	-	-
貸付金利息	-	-
不動産賃借料	-	-
その他利息配当金	-	-
商品有価証券運用益	-	-
金銭の信託運用益	-	-
売買目的有価証券運用益	-	-
有価証券売却益	-	-
国債等債券売却益	-	-
株式等売却益	-	-
外国証券売却益	-	-
その他	-	-
有価証券償還益	-	-
金融派生商品収益	-	-
為替差益	-	-
貸倒引当金戻入額	-	-
その他運用収益	-	-
合 計	0	0

(5) 資産運用関係費用

(単位：百万円)

区 分	2016年度	2017年度
支 払 利 息	0	0
商 品 有 価 証 券 運 用 損	-	-
金 銭 の 信 託 運 用 損	-	-
売 買 目 的 有 価 証 券 運 用 損	-	-
有 価 証 券 売 却 損	-	-
国 債 等 債 券 売 却 損	-	-
株 式 等 売 却 損	-	-
外 国 証 券 売 却 損	-	-
そ の 他	-	-
有 価 証 券 評 価 損	-	-
国 債 等 債 券 評 価 損	-	-
株 式 等 評 価 損	-	-
外 国 証 券 評 価 損	-	-
そ の 他	-	-
有 価 証 券 償 還 損	-	-
金 融 派 生 商 品 費 用	-	-
為 替 差 損	-	-
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	-	-
貸 付 金 償 却	-	-
賃 貸 用 不 動 産 等 減 価 償 却 費	-	-
そ の 他 運 用 費 用	-	-
合 計	0	0

(6) 資産運用に係わる諸効率

①資産別運用利回り

(単位：%)

区 分	2016年度	2017年度
現 預 金 ・ コ ー ル ロ ー ン	0.00	0.00
買 現 先 勘 定	-	-
債 券 貸 借 取 引 支 払 保 証 金	-	-
買 入 金 銭 債 権	-	-
商 品 有 価 証 券	-	-
金 銭 の 信 託	-	-
有 価 証 券	-	-
う ち 公 社 債	-	-
う ち 株 式	-	-
う ち 外 国 証 券	-	-
貸 付 金	-	-
不 動 産	-	-
一 般 勘 定 計	△0.00	△0.00
う ち 海 外 投 融 資	-	-

(注) 利回り計算式の分母は帳簿価額ベースの日々平均残高、分子は経常損益中、資産運用収益－資産運用費用として算出した利回りです。

(注) 海外投融資とは、外貨建資産と円建資産の合計です。

②売買目的有価証券の評価損益

該当する事項はありません。

③有価証券の時価情報(売買目的有価証券以外の有価証券のうち時価のあるもの)

該当する事項はありません。

④金銭の信託の時価情報

該当する事項はありません。

5. 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	2016年度 (2017年3月31日現在)	2017年度 (2018年3月31日現在)	科 目	2016年度 (2017年3月31日現在)	2017年度 (2018年3月31日現在)
(資 産 の 部)			(負 債 の 部)		
現 金 及 び 預 貯 金	5,740	6,586	保 険 契 約 準 備 金	5,013	6,387
現 金	0	0	支 払 備 金	198	213
預 貯 金	5,740	6,586	責 任 準 備 金	4,815	6,173
有 価 証 券	-	-	代 理 店 借	13	16
有 形 固 定 資 産	85	82	再 保 険 借	60	79
建 物	45	39	そ の 他 負 債	393	511
リ ー ス 資 産	-	-	未 払 法 人 税 等	5	5
そ の 他 の 有 形 固 定 資 産	40	42	未 払 金	26	0
無 形 固 定 資 産	34	164	未 払 費 用	316	457
ソ フ ト ウ ェ ア	34	164	預 り 金	3	3
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	-	-	リ ー ス 債 務	-	-
再 保 険 貸	89	77	資 産 除 去 債 務	17	17
そ の 他 資 産	2,870	1,364	仮 受 金	24	27
未 収 金	1,319	1,292	役 員 退 職 慰 労 引 当 金	8	10
前 払 費 用	28	30	価 格 変 動 準 備 金	0	0
未 収 収 益	-	-	繰 延 税 金 負 債	-	-
預 託 金	40	41	負債の部合計	5,490	7,005
仮 払 金	0	-	(純 資 産 の 部)		
保 険 業 法 第 113 条 繰 延 資 産	1,481	-	資 本 金	9,750	9,750
そ の 他 の 資 産	0	0	資 本 剰 余 金	8,590	8,590
繰 延 税 金 資 産	504	190	資 本 準 備 金	8,590	8,590
貸 倒 引 当 金	-	△0	利 益 剰 余 金	△ 14,506	△ 16,880
			そ の 他 利 益 剰 余 金	△ 14,506	△ 16,880
			繰 越 利 益 剰 余 金	△ 14,506	△ 16,880
			株 主 資 本 合 計	3,834	1,460
			そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	-	-
			評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	-	-
			純 資 産 の 部 合 計	3,834	1,460
資産の部合計	9,324	8,465	負債及び純資産の部合計	9,324	8,465

【注記】

1. 会計方針に関する事項

(1) 有形固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。

① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、建物（2016年3月31日以前に取得した附属設備、構築物を除く）については定額法）を採用しております。

② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産は、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(2) 無形固定資産の減価償却の方法

利用可能期間（主として5年）に基づく定額法によっております。

(3) 貸倒引当金の計上方法

貸倒引当金は、資産の自己査定基準および償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（以下「破綻先」という）に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者（以下「実質破綻先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（以下「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を計上しております。すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

(4) 役員退職慰労引当金の計上方法

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支給に備えるため、支給見込額のうち、当年度末において発生したと認められる額を計上しております。

(5) 価格変動準備金の計上方法

価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

(6) 消費税等の会計処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

(7) 責任準備金の積立方法

責任準備金は、保険業法第116条の規定に基づく準備金であり、保険料積立金については金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）により計算しております。

(8) 保険業法第113条繰延資産の償却方法

保険業法第113条繰延資産の償却方法は、定款の規定に基づき償却しております。

2. 金融商品の状況に関する事項及び金融商品の時価等に関する事項

保険業法第118条第1項に規定する特別勘定以外の勘定である一般勘定の資産運用は、負債の特性やキャッシュフローの状況を踏まえ、流動性を重視しつつ安定的な利息収入を得ることを目指しております。こうした認識に基づき、具体的には、必要な現預金を維持することを主眼としております。資金調達に係る流動性リスクについては、各部署からの報告に基づき関連部門が適時に将来キャッシュフロー分析を行い、必要な手許流動性を維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

主な金融資産及び金融負債にかかる貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預貯金	6,586	6,586	—

(注) 現金及び預貯金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから当該帳簿価額によっております。

時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品
該当する事項はありません。

3. 有形固定資産の減価償却累計額（リース資産含む）は 58 百万円であります。
4. 関係会社に対する金銭債権の総額は 1,112 百万円、金銭債務の総額は 8 百万円であります。
5. 繰延税金資産の総額は、816 百万円、繰延税金負債の総額は、2 百万円であります。繰延税金資産のうち評価性引当額として控除した額は、623 百万円であります。なお、繰延税金資産の発生の主な原因別内訳は、繰越欠損金 596 百万円であります。繰延税金負債の発生の主な原因別内訳は、資産除去債務に対応する資産 2 百万円であります。

当年度における法定実効税率は 28.24%であり、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主要な内訳は、評価性引当額の増減額△1.8%、税率差異の増減額△1.98%であります。

6. 保険業法施行規則第 73 条第 3 項において準用する同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金（以下「出再支払備金」という。）の金額は 19 百万円であり、同規則第 71 条第 1 項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金（以下「出再責任準備金」という。）の金額は 55 百万円であります。
7. 1 株当たりの純資産額は 2,265 円 3 銭であります。
8. 保険業法第 259 条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する当年度末における当社の今後の負担見積額は 35 百万円であります。なお、当該負担金は拠出した年度の事業費として処理しております。
9. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

6. 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2016年度	2017年度
	〔2016年4月1日から 2017年3月31日まで〕	〔2017年4月1日から 2018年3月31日まで〕
経常収益	3,672	4,284
保険料等収入	3,652	4,278
再保険収入	3,415	4,085
資産運用収益	237	193
利息及び配当金等収入	0	0
預貯金利息	0	0
有価証券利息・配当金	0	0
有価証券売却益	-	-
その他経常収益	19	6
支払備金戻入額	15	-
その他の経常収益	4	6
経常費用	7,305	7,452
保険金等支払金額	1,569	1,318
年金支払金額	778	383
給付金額	40	11
解約返戻金	450	556
その他の返戻金	76	87
再保険料	0	0
責任準備金等繰入額	222	279
支払備金繰入額	1,165	1,373
責任準備金繰入額	-	15
資産運用費用	1,165	1,358
支払利息	0	0
有価証券売却損	0	0
事業費	-	-
その他経常費用	3,039	3,212
税金	1,531	1,547
減価償却費	17	19
保険業法第113条繰延資産償却費	32	46
その他経常費用	1,481	1,481
保険業法第113条繰延額	-	0
その他経常費用	-	-
経常損失(△)	△ 3,633	△ 3,167
特別損失	-	0
固定資産等処分損	-	0
価格変動準備金繰入額	-	-
税引前当期純損失(△)	△ 3,633	△ 3,168
法人税及び住民税	△ 1,197	△ 1,107
法人税等調整額	342	313
法人税等合計	△ 855	△ 793
当期純損失(△)	△ 2,778	△ 2,374

【注記】

1. 関係会社との取引による収益の総額は0百万円、費用の総額は65百万円であります。
2. 支払備金繰入額の計算上、差し引かれた出再支払備金繰入額の金額は12百万円、責任準備金繰入額の計算上、差し引かれた出再責任準備金繰入額の金額は12百万円であります。
3. 1株当たりの当期純損失は3,683円74銭であります。
4. 関連当事者との取引に関する事項は次のとおりであります。

(1) 親会社及び法人主要株主等

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社	アクサ生命保険(株)	(被所有)直接100.00%	役員の兼任 出向者給与の支払	連結納税に伴う受取予定額	1,112	未収金	1,112
				出向者給与の支払	58	未払費用	6

(注) 価格その他の条件は、市場実勢を勘案して価格交渉の上で決定しております。

(2) 子会社及び関連会社

該当する事項はありません。

(3) 兄弟会社

属性	会社等の名称	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(百万円)	科目	期末残高(百万円)
親会社の子会社	アクサ損害保険(株)	-	代理店出向者給与の支払	代理店手数料	17	代理店借	1
				出向者給与の支払	24	未払費用	1

(注) 1. 価格その他の条件は、市場実勢を勘案して価格交渉の上で決定しております。

2. 取引金額及び期末残高には消費税等を含めております。

5. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

	2016年度	2017年度
基礎利益 A	△ 3,595	△ 3,136
キャピタル収益	-	-
金銭の信託運用益	-	-
売買目的有価証券運用益	-	-
有価証券売却益	-	-
金融派生商品収益	-	-
為替差益	-	-
その他キャピタル収益	-	-
キャピタル費用	-	-
金銭の信託運用損	-	-
売買目的有価証券運用損	-	-
有価証券売却損	-	-
有価証券評価損	-	-
金融派生商品費用	-	-
為替差損	-	-
その他キャピタル費用	-	-
キャピタル損益 B	-	-
キャピタル損益含み基礎利益 A + B	△ 3,595	△ 3,136
臨時収益	-	-
再保険収入	-	-
危険準備金戻入額	-	-
個別貸倒引当金戻入額	-	-
その他臨時収益	-	-
臨時費用	38	31
再保険料	-	-
危険準備金繰入額	38	31
個別貸倒引当金繰入額	-	-
特定海外債権引当勘定繰入額	-	-
貸付金償却	-	-
その他臨時費用	-	-
臨時損益 C	△ 38	△ 31
経常利益（損失） A + B + C	△ 3,633	△ 3,167

8. 株主資本等変動計算書

2016年度 (2016年4月1日から
2017年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	9,750	8,590	8,590	△ 11,727	△ 11,727	6,612	6,612
当期変動額							
新株の発行	-	-	-	-	-	-	-
剰余金の配当				-	-	-	-
当期純損失				△ 2,778	△ 2,778	△ 2,778	△ 2,778
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							-
当期変動額合計	-	-	-	△ 2,778	△ 2,778	△ 2,778	△ 2,778
当期末残高	9,750	8,590	8,590	△ 14,506	△ 14,506	3,834	3,834

2017年度 (2017年4月1日から
2018年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計	
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	9,750	8,590	8,590	△ 14,506	△ 14,506	3,834	3,834
当期変動額							
新株の発行	-	-	-	-	-	-	-
剰余金の配当				-	-	-	-
当期純損失				△ 2,374	△ 2,374	△ 2,374	△ 2,374
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							-
当期変動額合計	-	-	-	△ 2,374	△ 2,374	△ 2,374	△ 2,374
当期末残高	9,750	8,590	8,590	△ 16,880	△ 16,880	1,460	1,460

【注記】

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項
(単位：株)

	当期首 株式数	当期 増加株式数	当期 減少株式数	当期末 株式数
発行済株式				
普通株式	644,614	-	-	644,614
合計	644,614	-	-	644,614
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項
該当する事項はありません。
3. 配当に関する事項
該当する事項はありません。
4. 金額は、記載単位未満を切り捨てて表示しております。

9. 債務者区分による債権の状況

該当する事項はありません。

10. リスク管理債権の状況

該当する事項はありません。

11. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	2016年度末	2017年度末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	4,195	3,589
資本金等	2,353	1,460
価格変動準備金	0	0
危険準備金	368	400
一般貸倒引当金	-	-
(その他有価証券の評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前)) × 90% (マイナスの場合100%)	-	-
土地の含み損益 × 85% (マイナスの場合100%)	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	1,473	1,728
負債性資本調達手段等	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	-	-
控除項目	-	-
その他	-	-
リスクの合計額	383	416
$\sqrt{(R_1 + R_8)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4$ (B)		
保険リスク相当額	290	309
第三分野保険の保険リスク相当額	75	86
予定利率リスク相当額	0	0
最低保証リスク相当額	-	-
資産運用リスク相当額	58	67
経営管理リスク相当額	12	13
ソルベンシー・マージン比率	2,190.4%	1,723.2%
$\frac{(A)}{(1/2) \times (B)}$		

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条、第161条、第162条、第190条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

12. 2017年度特別勘定の状況

該当する事項はありません。

13. 保険会社及びその子会社等の状況

該当する事項はありません。